

図書館報 みかづら

和歌山県立医科大学図書館三葛館



目次

読書の思い出-----	1	図書館サポーターLaPoの活動-----	6
人生は明るくポジティブに-----	3	MIKAZURA NOW! -----	7
求めよ、さらば与えられん-----	4	「MIKAZURA form」をご存じですか----	7
素敵な出会い-----	5	平成22年度三葛館活動記録-----	8
読書っていいな-----	5	編集後記-----	8

読書の思い出

医学部 教養・医学教育大講座（物理学） 教授 牧野 誠 司

小学校の時、学校の図書館で本を借りて読んで感想文を書くという宿題が何回となく出た。感想文を書くわけなので当然文学作品を読むことになるのだが、当時の私は（今も全く変わっていないが）文章を書くのが大の苦手で、四苦八苦して書いたのを覚えている。したがって、当時から感想文とは無縁の理科系の本を読むのが大好きであった。中学校に入っても、相変わらず、宇宙論や素粒子関連など理科系の本を読み、「将来は宇宙論・宇宙物理学をやるんだ」と勝手に決めていた（しかし、大学理学部に入学する春に量子力学などの入門書を読んでいるうちに宇宙から素粒子に方向性を変更した）。その傍ら、感想文という宿題は出なくなったからというわけではないが、北杜夫、阿川弘之、遠藤周作といった作家のエッセイを読むようになった。北杜夫の『どくとるマンボウシリーズ』、阿川弘之の旅行（鉄道）エッセイ、遠藤周作の狐狸庵物といった肩の凝らないものを読んでいたが、彼らの小説はどんなものかと思ひ、いろいろ読むようになった。その中でも特に印象に残っているのは北杜夫の『夜と霧の隅で』（新潮文庫；新潮社、1985）である。この文庫本は、「溪間にて」、「岩尾根にて」、「霊媒のいる町」、「羽蟻のいる丘」、「夜と霧の隅で」という短編小説が収録されたものである。各作品それぞれに特徴があるが、

精神医学の専門家（東北大学医学部出身）ならではのテーマ、視点が盛り込まれている印象がある。淡々としたストーリー展開の中に心理描写が散りばめられており、独特の雰囲気がある。なお、「夜と霧の隅で」は芥川賞受賞作品である。

さて、この「夜と霧の隅で」という小説であるが、図書館三葛館より『図書館報みかづら』に文章を書くよう依頼されたのと同じころの平成23年10月24日に、著者である北杜夫氏が亡くなられたというニュースを耳にし、ふと思い出した。このタイトルからロマンチックな小説を連想した人もいるかも知れないが、残念ながらそうではない。「夜と霧」とは、みすず書房から翻訳が出版されているヴィクトール・フランクル著の『夜と霧』にあるように、第二次世界大戦中にナチスが発した命令の名前である。最も優れた人種であるアーリア人種の純血を守るためと称してユダヤ人の大量虐殺を行った命令である。ただ、この命令はユダヤ人のみをターゲットにしたものではない。アーリア人種は優秀であるからということで、ナチスの軍医によって不治と判断された精神病患者の抹殺も行われた。このことはあまり知られていない。私もこの北杜夫の小説で初めて知った。この小説では、ドイツの片田舎の精神病院の医師たちがナチスの命令に対抗して何とか患者を助けようとする姿を描いている。一方にはナチスに従って仕事をする医師（軍医）がいて、他方には患者を守ろうとする医師がいる。どちらも医師である。医師の使命とは何であろうかということを考えさせられる小説である。また、この小説の中で精神病院の医師たちが患者を守ろうとして（不治ではないことを示そうとして）行っている処置は、現在では非人道的とされているものである。何が人道的で何が非人道的か、ということもよく考えないといけない問題である。特に、極限状態ではぎりぎりの判断が迫られることとなるのではないだろうか。現在の日本ではこのような状態はあり得ないかも知れないが、世界中のどこにおいてもこのようなことが再び起こらないことを願っている。



Journals@Ovid に新たに Ovid Nursing Full Text を導入しました

2012年1月より、OVID社の電子ジャーナル提供サイト Journals@Ovid に、新たに看護のタイトルパッケージである「Ovid Nursing Full Text」を導入しました。これにより、LWW社の看護系電子ジャーナル43タイトルを含む約70タイトルの本文を学内の端末から閲覧できます。

CINAHLなどの各種データベースからフルテキストへのナビゲーションシステムや本学電子ジャーナルリストにも搭載しています。 Journals@Ovid 接続先 <http://gateway.ovid.com/>

人生は明るくポジティブに

助産学専攻科 教授 飯田 美代子

本と私の関わりについて振り返ると、子どもの頃は、童話や昔話を讀んだり聞いたりしていました。話がシンプルなせいも今でもストーリーを思い出すことができます。中学生になりますと、少女向けのやさしい文学全集や推理小説、偉人伝をわくわくしながら讀みました。中学1年の夏休みにモンゴメリーの『赤毛のアンシリーズ』（L.M.モンゴメリー著；掛川恭子訳，講談社，1991）を1巻から10巻まで一気に讀んだことが特に懐かしく思い出されます。高校生になりますと、世界や日本の文学全集、詩集を讀み、人生の中で一番よく本を讀んだ時でした。そのころ讀んだ『魔の山』『ジャン・クリストフ』『チボー家の人々』『こころ』『暗夜行路』などを思い出そうとしても、今では何も思い出せません。高校生の生活体験では小説の全部は理解できず、字を追っていた節もあります。しかし、讀んでいたその瞬間は想像しながら心躍る楽しい時間でした。看護学生の時、医師で作家のカロッサのシリーズを讀みました。妻を病気で亡くした主人公の医師が、積み上げられた専門雑誌の封を切って讀んだ時、その中に妻と同じ病気の新しい治療法が掲載されていて、主人公がもっと早くにこの論文を讀んでいたなら妻は死なずにすんだのではないかと後悔する場面が心に残り、専門雑誌の重要性を感じたものです。

本を讀む意義はなんだろうか。本は、時空を超えて讀み手に、人間とは何か、書かれた時代の生活や社会背景、人や自然とのコミュニケーションのあり方を示唆し、主人公を通して多くの生き方や問題解決方法を教え、私たちがよりよく生きるヒントを与えてくれます。

ヒトは活動的な動物です。大きく分けて身体活動と精神活動（すなわち、脳の活動）があります。パスカルは「人間は考える葦である」といいましたが、現代では脳死が認知されているように、精神活動は人間であることの重要な側面です。人間は身体活動が不自由でも精神活動を日々行い、自由にどこにでも行けます。読書は、思考し再構築し創造し大局的な視点に立ち文化を築く土台となります。忘れてもよいから本をたくさん讀み、思考することで論理的思考も出来上がると思います。

さて、私が皆さんにお薦めする本を一冊あげるとすると、45年ほど前に讀んだ『少女パレアナ』（エレナ・ポーター著；村岡花子訳，角川書店，1995）です。孤児になったパレアナは、独身の叔母さんに引き取られ冷たくされながらも、父親から教わった「喜びの遊び」を通して叔母さんだけでなく村中の人々を明るくしていきます。人間には、どのライフステージにおいても悩みや問題はつきものです。還暦を過ぎた今、人生は明るくポジティブに楽観的に生きることが大事だと感じています。



求めよ、さらば与えられん

保健看護学部 准教授 宮 嶋 正 子

平成23年4月に着任して以来、授業資料作りに三葛館に足繁く通いました。レファレンスコーナーでは、丁寧な対応により、オンラインで入手できない文献も取り寄せていただき、大変助かっています。また、短大時代からの蔵書が大事に保管されており、大変有難い図書環境に恵まれました。

さて、図書館で本を探るとき、書架に並んだ書名を見て手にとり、目次や内容あるいは著者名に目を通して選んでいくことが多いでしょう。「何を知りたいか、求めるか」が重要ですが、自分にとってむずかしいかどうかも選択の決め手になります。つまり、決め手は自分自身が持っているのです。むずかしいと思った本を読まない決めたら、著者の知識や経験を感じることはできません。この難しさを乗り越えるには、先の「何を知りたいか、求めるか」という自分自身の探究心を高めていくことが重要になります。学生の皆さんは、保健看護学を学ぶ過程で、健康・生活に関する経験を意識的に積むことにより、著者と同じ種類の経験を自分のものにするができるようになるでしょう。

このような挑戦をしていくと、自分にとって必要な本や役立つ本はむずかしくなく、これまでのむずかしさは氷解していくものです。むずかしいと感じた時は、暫くその本を寝かせ、もう一度、新たな気持ちで読み返すと、すんと胸におさまることがあります。急に良いアイデアが閃くような目の前がパッと明るくなる、そんな感じです。誰かが思いついた新しい考えを本の中から読み取り理解するのは、このような自分自身の探究心を高める努力にかかっています。—「求めよ、さらば与えられん」。これは『新約聖書：マタイによる福音書』にあるイエスの言葉です。さらに「尋ねよ、さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん」と続いており、与えられるのを待つのではなく、自ら進んで求める姿勢が大事であると解釈されています。この言葉は、いつの時代も真実であると思います。本にあらわされる日本語の文章を愉しみ、その表現の多様性に触れることは、書く力を伸ばすことにもつながります。

三葛館では、今後も授業準備に利用させていただくのはもちろんですが、保健看護学以外の本も広く読んでいきたいと楽しみにしています。三葛館は、私にとって仕事の遂行になくてはならない資料の宝庫です。また読書の愉しみという知的好奇心を満足させてくれる場所でもあります。入館すると、すぐのところどころに新刊本が置かれ、好奇心を刺激するように準備されているのも嬉しいと感じています。時間を惜しまず、三葛館で読書の愉しみを無限に味わっていきたくないと願っています。



素敵な出会い

助産学専攻科 講師 瀧川 由美子

私が「本好き」になったのは、中学生時代からだと思います。中学校の図書館で友人と何時も競争のように本を借りて読むのが楽しみでした。その頃は、本自体も好きだったのですが、本の後ろにある図書カードに自分の学年と組と名前を書くのが楽しみだったのだと思います。その当時、推理小説が好きだったのですが、友人が文芸小説をよく借りて読んでいたので、私も学校推薦図書関係は殆ど借りて読んだような記憶があります。ただ、未熟だった私には、著者の思いを読み取ることは到底難しく、繰り返し同じ頁を読みなおし、何日もかかって頁を進めたことを思い出します。現在は年齢的に目で活字を追うことが少々辛く、仕事以外での「読書」の時間は減りましたが……。本は今でも私の宝物でもあります。

自分の時間で本を選ぶ時は題名で選ぶ場合もあるし、表紙のデザインで選ぶこともあります。なんとなくその本に惹かれて手に取ることもあります。多少あたり？はずれ？はありますが、この出会いが「どきどきする」瞬間でもあります。また、読書中はその本の世界と一体化して精神を集中できる時間でもあります。ある種、私の一番の「リラクゼーション」の時間なのかもしれません。

本学の図書館では、自分の専門以外の分野にも多くの出会いがあると思います。皆さんも素敵な出会いを探しに三葛館にいらしてください。

読書っていいな

保健看護学部 助教 工藤 貴子

私が「読書っていいな」と思うことは、年代や地域を気にせずに様々な人と出会うことができ、疑似体験に近い経験ができることです。人は、人生の中で様々な人に出会い、影響を受けながら成長していきます。しかし、実在する人物との出会いは意外に限られているものです。そこで、先人の伝記や歴史に関する本を読むことで、戦国時代の武士やルネサンス時代の画家との出会いのチャンスが訪れます。彼らは、人生を生きる上でのたくさんのヒントをくれます。さらに、時代背景や文化、教育、流行などを知ることで、知らない世界に触れることができます。

そこで、私が皆さんに紹介したい本は『ローマ人の物語』（塩野七生著、新潮社、1992-2006）です。この本に出てくるユリウス・カエサルは、私が読書で得た理想とする人物像の一人です。なぜなら、彼はリーダーの条件を全て持ち合わせていたからです。ここでいうリーダーの条件とは、イタリアの高校の歴史教科書にも載っているもので、「知性」「説得力」「肉体上の耐久力」「自己制御の能力」「持続する意志」という五つの資質を指します。詳しい内容を知りたい方やユリウス・カエサルに興味を持った方には『ローマ人の物語』を読むことをお勧めします。ただし、この本は15巻で完結する壮大な物語です。私もまだ読んでいます最中ですので、これからも読み進めて古代ローマの世界に触れたいと思います。

図書館サポートグループ“Lapo”の活動

はじめまして!“Lapo (らぽ)”です！

私たちは、もっと多くの学生に三葛館を利用してもらい充実した学生生活を送ってもらうために、平成23年9月に学生による図書館サポートグループ“Lapo”を結成しました。初めての取り組みだったのでなかなか思うように物事が進まなかったりしましたが、司書さんや図書委員の先生方にご指導していただきながら、にぎやかに活動しています。

学生のみなさんに少しでも図書館に興味を持ってもらいたいという思いを込めて、不定期ですがメンバーが集まることができるときに、取り入れたいことや改善した方がいいことなど、随時活動内容を話し合っています。図書館サポーターと分かるようにカラーの名札を用意してもらい、活動中は首から提げています。

今年度の主な活動として、保健看護学部4年生に“心に残った1冊”ということでお勧めの本についてアンケートに協力していただきました。その結果をもとに初めての展示企画を行いました。学生生活の参考になればとLapoの本棚コーナーや図書館ホームページにブックログ(Web上の仮想本棚)を設置しました。先輩がお勧めする本を展示して、「勉強や息抜きの参考にさせてもらおう！」という内容になっております。展示の仕方にも工夫し、図書館に入ったら目に留まるようにポスターや本の配置を考えました。私たちLapoのメンバーも実際にお勧めして下さった本を読みました。「この本を読みたい！」と興味や関心がわくように心がけて作成した紹介文を掲載しております。「素敵な本に出会えて良かった♪」と思えたり、「先輩たちはこんな風に本を活用して勉強されているんだあ！」と学んだり「この雑誌面白い！」と今までは手にしたことがなかった雑誌の存在に気づいたり……。多くのことを学ばせていただき、楽しませていただきました。普段4年生の先輩方とはお会いする機会も少なく、なかなか交流する機会がなくて残念でしたが、本を通じて先輩方とつながれたような気がします。これらのオススメの本を今度は友達や先輩や先生方に知ってもらい、何か感じてもらえたらと思っております。

Lapoの活動はまだまだ模索中ですが、図書館を利用する人が少しでも増えて、私たち学生の視点から利用しやすい環境にしていけるように情報発信し、活動していきたいと思っています。ぜひ一度、三葛館や三葛館のホームページにお立ち寄りください。(保健看護学部1年 滝 逸子)

ブックログ:図書館三葛館Lapoの本棚 <http://booklog.jp/users/lapo2011>



平成23年度 展示図書テーマ一覧

- 第19回「新生活！はじまり、はじまり」
- 第20回「Mother」
- 第21回「今、君たちに伝えたいこと」
- 第22回「人をタスケルということ」
- 第23回「『図書館報みかづら』からみる あの人が語る、この一冊。」
- 第24回「トップランナーの考え方」
- 第25回「映画原作三昧」
- 第26回「おいしい本、いただきます」
- 第27回「ハンサムウーマン」
- 第28回「結婚 Research」

平成23年度保健看護学部卒業生の表彰を行いました！

平成24年2月13日に、在学中貸出冊数上位者の表彰を行いました。卒業生1人あたりの平均貸出冊数は152冊で、第1位の方の貸出冊数は435冊でした。
本学在学中に身につけた知識をこれからの人生でさらに深め、様々な分野で活躍されることを願っています。



MIKAZURA

平成22年度 利用統計

年間開館日	280日
入館者数	34,714人
(1日平均)	124人
貸出人数	7,966人
図書貸出冊数	21,472冊
視聴覚資料貸出件数	255点
相互利用依頼件数	649件
相互利用受付件数	1,178件
学外利用者数	838人

NOW!

三葛館の蔵書2010

蔵書冊数	49,379冊
うち洋書	7,709冊
所蔵雑誌種数	855種
うち外国語	144種
年間受入図書冊数	3,294冊
うち洋書	348冊
年間受入雑誌種数	465種
うち外国語	110種
(2011/3/31 現在)	

「MIKAZURA form」をご存じですか

図書館三葛館では、教育・研究・学習活動を支援するための資料を購入しています。利用したい資料が図書館に所蔵していない場合は図書購入希望「MIKAZURA form」に必要事項を記入してリクエストすることができます。原則として、購入希望の対象となる資料は図書と視聴覚資料です。検討の上、購入することが決まった図書は、申込者が優先的に利用(貸出)できます。みなさまのリクエストをお待ちしています。

- ✓ 申込前に OPAC を検索して図書館三葛館で所蔵していないことを確認してください。
- ✓ 書名・著者名・出版社・出版年などの必須項目が不明の場合はカウンターにご相談ください。
- ✓ 入手までに和書は2-3週間、洋書は1-3ヶ月程度かかります。
- ✓ 絶版などの理由で入手できない場合はご容赦ください。
- ✓ 「MIKAZURA form」は三葛館あるいは三葛館ホームページで入手できます。

図書購入希望 MIKAZURA form
短期山形大学保健看護学部蔵書課

※館内に記入してください。※は必須項目

●氏名
●図書館利用カード番号 ●所属・学年

●書名
著者名
出版社名
出版年
出版年
ISBN
●希望理由(具体的に)

資料番号(半角)	—	受付日:	年	月	日
受付者:		連絡:	メール	TEL	備考
図書本部企画課	館	印刷	購入可能:	可	否
発行番号:		記入日:			
備考:					

平成22年度（2010年度）三葛館活動記録

- 4月1日 保健看護学部新規採用教員 図書館オリエンテーション
- 4月6日 保健看護学研究科 新入生オリエンテーション
- 4月7日 第1回保健看護学部図書委員会
- 4月8日 保健看護学部 新入生オリエンテーション
助産学専攻科 新入生オリエンテーション
医学部 新入生オリエンテーション
- 4月15日 附属病院新規採用看護職員研修 図書館オリエンテーション
- 4月17日 日本看護図書館協会 第20回総会（国立看護大学校：東京）
- 4月20日 助産学専攻科「助産研究」文献検索講義
- 4月26日 保健看護学研究科「保健看護情報統計学」文献検索講義
- 5月7日 第1回図書館委員会
- 5月14日 日本看護図書館協会 第1回教育・研修委員会（大阪医科大学）
- 5月31日 第2回保健看護学部図書委員会
- 6月4日 保健看護学部3年生「保健看護研究Ⅰ」 文献検索講義
- 6月7日 第2回図書館委員会
- 6月11日 保健看護学部3年生「保健看護研究Ⅰ」 文献検索講義
- 7月6日 EBSCO Japan セミナー2010（阪急グランドビル：大阪）
- 7月15日 株式会社リコー 図書館システム LIMEDIO セミナー（スイスホテル南海大阪）
- 7月28日 第3回保健看護学部図書委員会
- 8月6日 日本看護図書館協会 第2回教育・研修委員会（大阪医科大学）
- 8月16～20日 蔵書点検
- 8月26～27日 日本看護図書館協会 第41回研究会（熊本保健科学大学）
- 9月11日 日本看護図書館協会 第4回教育・研修委員会（大阪医科大学）
- 9月15日 公私立大学図書館コンソーシアム(PULC) 電子ジャーナル版元説明会（近畿大学：大阪）
- 9月16～17日 第96回全国図書館大会 奈良大会（なら100年会館ほか）
- 9月27日 附属病院看護部院内継続教育「看護研究をしよう」研修
- 10月7日 保健看護学研究科「英語文献講読」 海外文献検索講義
- 10月20日 日本看護図書館協会 第3回教育・研修委員会（大阪医科大学）
- 11月6日 日本看護図書館協会 第6回新人研修会（国際医療福祉大学小田原キャンパス：神奈川）
- 11月10日 第4回保健看護学部図書委員会
- 11月19日 保健看護学部「保健看護英語」 海外文献検索講義
- 11月24～26日 第11回図書館総合展（パシフィコ横浜）
- 12月17日 日本看護図書館協会 第4回教育・研修委員会（大阪医科大学）
- 2月2日 第5回保健看護学部図書委員会
- 2月3日 日本看護図書館協会 第5回教育・研修委員会（大阪医科大学）
- 3月3～4日 国立国会図書館 平成22年度レファレンス研修（国立国会図書館関西館：京都）

編集後記

図書館三葛館に強力なお助け隊が誕生しました！図書館サポートグループ Lapo です。平成23年度は保健看護学部1年生6名を中心に活動していましたが、新しい年度にはさらにたくさんの方に関わっていただき、利用する側からの視点を三葛館の運営に取り入れていきたいと思っております。

先生方にご寄稿いただきました本号の記事にたびたび見受けられます「本や人との出会い」を創出できるような図書館をめざしたいと思いますので、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。(J.S.)

~~~~~

平成24年3月31日発行

図書館報 みかづら（第15号）

編集・発行 和歌山県立医科大学図書館三葛館

〒641-0011 和歌山市三葛580番地

TEL (073) 447-2300（代表）

(073) 446-6721（三葛館）

FAX (073) 446-6730（三葛館）

~~~~~